

篠路獅子舞

篠路獅子舞は、明治30年代に富山県から伝わったといわれています。獅子舞は春には豊作を祈り、秋には実りに感謝するために奉納します。

篠路獅子舞を守り続けているのは篠路獅子舞保存会の皆さんです。

獅子舞の先頭に立って獅子を操る「獅子取り」と呼ばれる役

には、地元の小学生4人が活躍しています。



保存会の皆さん(左から岡山さん 熊木さん 中西会長)

この獅子取りは小学校1年生から6年生までの6年間同じメンバーで活動し、2人ずつ2組に分かれて演舞を行います。

練習前は元気にはしゃぐ小学生たちも、練習が始まると真剣な表情になり、真剣な表情で練習しています



真剣な表情で練習しています

た。細かいステップを踏みながら華麗に舞う姿は「すごい！」のひと言。また、グループ同士で互いに練習の様子を見ながら、良いところ悪いところを指摘し合って、高いレベルを目指そうと頑張っていました。小学生たちを指導する同保存会の熊木基雄さんたちは、太鼓や笛で踊りを盛り上げる重要な役割も担っています。



本番は多くの観客の前で、緊張も見せず華麗に舞っている姿に感動しました。

獅子取りを務めた4人は「来年も頑張りたいです」と決意を新たにしています。演舞後みんなで記念撮影です



演舞後みんなで記念撮影です

私たちが取材・編集しました!

多くの人に子どもたちが現在の伝統芸能を創りあげているということを知りたいという思いで作りました。記者の仕事はとてもやりがいがあり楽しかったです。

小池流菜 記者
(北辰中2年)



取材前は北区の伝統文化について全く知らなくて、少し戸惑いましたが、取材すると同じ年代の人が活躍しているのが分かり、興味を持つことができました。記者の活動は大変でしたが楽しかったです。

池上杏 記者
(北海道教育大学附属札幌中1年)

普段体験できない「一眼レフカメラでの撮影、取材、編集」など貴重な体験ができて楽しかったです。

佐藤愛美 記者
(篠路中1年)



いつもは体験できないことが数多くあり、とても楽しかったです。北区の伝統芸能についても知ることができ、良い経験になりました。

石川優理矢 記者
(光陽中1年)

篠路歌舞伎

篠路歌舞伎は、明治35年ごろに地元の人たちが始めた農村歌舞伎でしたが、鉄道の発展とともに都心に娯楽を求める人が増え、徐々に衰退してしまいました。

その後、篠路中央保育園で昭和61年に篠路子ども歌舞伎として復活。年



大きな声でせりふの練習です

大きな反響を呼びました。そして、昭和63年から篠路コミュニティセンターの文化祭で毎年たくさんの人たちに披露しています。

篠路中央保育園の林園長は「子ども歌舞伎は全国にたくさんありますが、保育園児がやっているのは篠路だけです」と

林園長

林園長

篠路歌舞伎の史料を展示しています!



貴重な史料が展示されています

篠路歌舞伎の台本や引き幕など当時使われていたものが展示されています。ぜひご覧ください。

問い合わせ：篠路コミュニティセンター
☎ 771-3700



石本館長

表情でせりふや立ち回りを確認していました。今年「白浪五人男」を演じ、迫真の演技で会場を沸かせてくれました。また、来年1月31日(金)には、次の年長児に伝統を引き継ぐ「伝承式」が篠路コミュニティセンターで行われます。



真剣な子どもたちが練習しています